

# 潮音寺だより

<http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/> ナモの寺 検索 ▶  
〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬一丁目 10-11

第300号  
平成20年10月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

choonji@aichi.email.ne.jp



撮影：超空正道

# 般若波羅蜜

【語意】 智慧を完成すること

はんにゃはらみつ

つい出る

愚痴は

愚かなる知の病

自身で苦しみ

人をも苦しめる

布施（ふせ）

持戒（じかい）

忍辱（にんにく）

精進（しょうじん）

禅定（ぜんじょう）

智慧（ちえ）

六波羅蜜の生薬に  
空なる妙薬と共に

朝にあした

日に

夕べに

服用するがよい

## 般若波羅蜜 (その一)

現代の日本人に「信仰する宗教は何か？」という問いに対して、「無宗教」と答える方が少なくありません。また、「危険なもので近づかない方がよい」と考えている人も少なからずおられるのではないかと思われます。理由はさておき、仏教界に身を置くものとして、残念に思います。

今から二十五年前、私自身仏教についてよく知りませんでしたので、皆様とご一緒に勉強させていただくつもりで、月刊『潮音寺だより』を発刊いたしました。それが、今月号でひとつの区切りである三百回目を迎えました。そこで、「仏教・仏法・仏道とは何か?」、私なりの三百回分の総決算のつもりで、今回の表題とさせていただきます。

キリスト教・イスラム教とならんで、世界三大宗教のひとつである「仏教」は、古くは、「仏法」あるいは「仏道」と呼ばれることが多かったようです。道元禪師は、『正法眼蔵』の第一「現成公案」の巻にて、「仏道を習うは、自己を習うなり」とおっしゃっています。仏教を学ぶ者にとつて、先ず、ここをを押さえておかねばなりません。

私ども、凡夫なるがゆえ、つい愚痴が出るものです。愚痴が出るのは、不満があるからで、自分自身が面白くないのは無論、言われた方も、これまた面白くありません。愚痴は、周り全体を不幸にする厄介なものです。つまり、仏教は、この愚痴が出ないようにするための教えであるといえます。

愚痴のことを無明ともいい、道

理に暗くて適確な判断が下せず、迷い悩む心の働きのいい、煩惱の中でもっとも根源的なものといわれます。梵語では、モーハ(moha)、音写して「莫迦」、それが「馬鹿」になったということですので、要は、智慧が足りないということとです。ただ、ここでの智慧は、単に学校の成績がよいとか、金儲けの才に長けているというようなことではありません。

釈尊が、まだ在世中のお話です。インド北部に、二人の兄弟がおりました。縁あって、二人とも釈尊のお弟子になりました。兄はとても賢く、釈尊の教えをよく理解し、深く仏教に皈依していました。弟の名は、チューラパンタカ(周利槃特)といい、ものを覚えるのが苦手で、自分の名前すらも覚えられず、いつも人から笑われてい

ました。

兄は、そんな弟を心配し、釈尊から聞いた教えを短い詩にまとめ、なんとか弟に覚えさせようとしますが、朝覚えたと思っても、昼にはもう忘れてしまうのです。

とうとう兄は、弟に僧団から出るよう突き放しました。それを聞いたチューラパンタカは、門前で自分の愚かさ涙を流しながら途方にくれていました。

そんなチューラパンタカに、釈尊が優しく諭さとしました。

「おまえは愚者ではない。愚者でありながら、自分が愚者たることを知らぬのが、ほんとうの愚者である。おまえはおのれを知っている。だから真の愚者ではない。自分が愚かであることに気づいている者こそ、智慧ある人というのだ。」

そして、チューラパンタカに「塵ちりを払い、垢あかを除かん」というごく簡単な偈げもん文ぶんを教え、一本の箒ほうしを渡しました。

それからというものが、彼は、来る日も来る日も、ただひとつの偈文ちり、「塵ちりを払い、垢あかを除かん」を唱えつつ掃除に励みました。そして、ついには「迷いは塵ちりや垢あかである。智慧こそ、これ心の箒ほうしである」と悟り、阿羅漢あらかんという聖者の位に達することができたと、仏典にあります。

今回の表題である「般若波羅蜜」は、チューラパンタカが達した「智慧の完成」を意味する梵語ぼんびを音写したものです。つまり、仏教が目指すところの悟りを意味します。詳しくは次回に譲りますが、私ども、奇しくも人間として生うまれをうけているからには、「食うためだけ

に生きる」では、他の動物と変わらぬ、情けないことです。

『法句経』一八一二番に、  
聞くこと少なきひとは

かの犁すきをひく牝牛おんしのごとく

ただ老ゆるなり

その肉は肥ゆれど

その智慧は増すことなからんとあります。

若い頃は、何もかもが新鮮で、いろいろな話を聞こう、聞こうとしますが、年齢を重ねるに従って、どうしてもこれまでの経験けいけんの間まに合あつと思つてか、他の人の意見いけんや話を聞こうとしなくなる傾向があります。むしろ、聞かせよう、聞かせようとしたがるものです。

釈尊は、「食つてばかりいないで、良い話を多く聞きなさい」とおっしゃっています。私どもには、実に、耳の痛いお言葉です。

般若湯はんによと

中国の宋代に生まれた隠語で、もちろんお酒のこと。インドでは古来から酒をたしなまないことが美德とされ、戒律でも、飲酒は「顔色が悪くなり人相が変わる」、果ては「死後は悪道に墮ちる」とまじでされた。

しかし仏教が中国へ伝わると、様相は一変する。中国の寺は、主として山岳地帯に建てられた。そんな地域では、冬ともなるとシンシンと冷える。だから、酒で暖でもとらねば耐えられなかったのだらう。

そこで中国の僧たちは、この酒を智慧の水「智水ちすい」であると決めつける。酒はときには気違い水にもなるが、智慧の水ともなる。彼らは勝手に都合のいいほうを選んだ。そしてつけたのが「般若湯」。

「般若」とは、梵語では智慧のこと。それも、悟りを得た最高の智慧のことである。つまりは、酒は智慧を生む水であると考え改めることにより、初めて中国の僧侶たちは後ろめたさを消し去ったというわけだ。

ちなみに能面の一つに、嫉妬しつとや怒りなどをたたえた般若面というものがあるが、これは般若湯を飲みすぎたわけでもなく、智慧が曇った際の顔でもない。あれはあくまで鬼女。面打ちの般若坊が創造した型なので、この名が。

(「仏教のことば」早わかり事典)

## 雑記



## ▼リニユール

本誌三百号を機に、作成ソフトを替えました。以前の、不具合が出たせいですが、ずいぶん長く

使っていましたので、慣れるまでしばらくかかりそうです。

## ▼阿弥陀堂寄進

新たに次の方からご応募いただきました。感謝申し上げます。

・村田実様 一万円(二口)

## ▼近況

孫の道祥みちあきです。十ヶ月になりました。お母さんに、略衣りやくえとお袈裟けさを



作ってもらいました。まだ、お経は読めませんが、格好だけは、一人前です。

◆また偽装口ぎそうをへの字に

案山子かかしかな 沐魚